

こども分科会について

1 設立趣旨

こども…育ちづらさ
親 …育てづらさ

} 子育てしやすい環境=誰もが住みやすいまちづくり

子育て…相談(核となる場)と地域づくり(つながりをつくる)が必要

2 これまでの取り組み<令和3年7月から令和4年8月まで>

(1) 目標

第3期久留米市障害者計画である「支援が必要な子どもの発達支援と保育・教育の充実」に基づき、こども分科会では下記の取り組みを実施する。

- ① 相談事業や療育の現状を把握し、抱えている課題の抽出や整理を行い、不足している部分を補完していける仕組みを検討する。
- ② 障がいのあるこどもが住み慣れた地域で、ともに成長していけるような学びの場を確保していけるように、団体同士の繋がりや地域づくりを支援する。

(2) 取り組み

回数	月日	内 容
第1回	R3.9.3 zoom 開催	ぶらっと・荘島に行ってみよう 親の会の現状や課題を知ろう 意見交換
第2回	R3.10.15 ぶらっと・荘島	こどもに寄り添い支え合う団体同士のつながり ～マップ作り(機関紙)を通して～
第3回	R3.11.26 ぶらっと・荘島	マップ作り(機関紙)の進捗
第4回	R4.4.25 zoom 開催	マップ(機関紙)の反響や感想 小学校高学年、中高校生のこどもたちの現状について
第5回	R4.7.29 zoom 開催	不登校・ひきこもり支援窓口の活動紹介と意見交換 ・久留米市若者相談窓口みらくる ・福岡県ひきこもり地域支援センター筑後サテライトオフィス

※令和4年8月26日…楠の会・一步の会ヒアリング実施(於えールピア)

(3) 成果

今年度の分科会は、コミュニティースペース「ぷらっと・荘島」を利用して、久留米市内の様々な親の会の皆さんと互いの活動状況の報告やヒアリングを行った。

その中で、長い間同じ理由で悩み、辛い思いをされてきた親御さんが集う場所には様々な互助的な関係が築かれ、やがて自助力を回復された当事者が新たな支え合いの協力者として会の運営に携わっておられることがわかった。

こういったインフォーマルな社会資源を「りんごマップ」という形で視覚化する作業を通して、それぞれの親の会を知りつながりもてたことは大きな成果と言える。

出来上がったマップは、支援を必要としていながらも社会的つながりが弱い相談支援などに結び付きにくい人への紹介ツールとしても活用できている。

3 課題

- ・ 基幹通信10号に「こんなとこ、あったらいいな」と題して、引きこもり・親の会・当事者の会・居場所を特集し、それらの活動を評価するとともにマッピングで視覚化（りんごマップ）を行ったが、今後は作成で終わらせることなく、独自で動いている団体同士をつなぎ合わせ、面としてネットワークを作っていくなど、団体へのバックアップ体制として取り組んでいく必要がある。
- ・ 今年度の活動の中で、学齢期の不登校や引きこもりとなっている障害のある児童を含めた子ども達本人の居場所や支援の方法について課題が見えてきたため、障害福祉の分野だけでなく、こども分科会や所管課を超えて、不登校・引きこもりに携わる分野の関係者が集まり一緒に考えていく機会をつくる必要がある。
- ・ 今後も一緒に動いてくれる人や団体を増やし活性化させていく必要がある。そのためにも事務局主体で活動内容を検討していくのではなく、参加者主体の分野や課題に取り組んでいく必要がある。また、できれば子ども達本人が主体性をもって取り組める場を検討していく機会としたい。

4 事業計画 <令和4年8月以降の取組み>

(1) 目標

- ① 不登校や引きこもりになっている障害のある児童を含めた子ども達の実態や現場の声を聴くとともに、課題の整理を行い、補完できる資源や仕組みを検討する。
- ② りんごマップに掲載した団体同士のつながり強化や新たな活動団体の支援の活性化を図る等、団体へのバックアップ体制を図る。

(2) 取り組み内容

開催頻度…年4回

※開催方法はコロナ禍の状況により、集合またはオンライン開催などその都度選択する。

① について

- ア 不登校、引きこもりに関する相談窓口や支援機関との意見交換。
- イ 不登校、引きこもり経験のある家族や本人からの話を聴く機会。
- エ 現状の福祉サービス（主に放課後等デイサービス）やフリースクールなどで不登校ひきこもりの児童を受け入れている事業所の数や実態の把握を行う。
- オ 社会資源の見える化など、情報発信の方法や人材育成などの仕組みづくりの検討。

② について

- ア 団体同士が知り合う機会、各団体の活動内容をもっと詳しく知る機会をもつ。（特に今年度は不登校・引きこもりに焦点をあてた関係機関や子ども達本人同士を繋いでいく機会をもつ）
- イ それぞれの団体の持つ社会資源情報を共有し合う機会をつくる。

(3) 期待される成果

- ・目標①については、不登校や引きこもりとなっている障害のある児童を含めた子ども達本人やその保護者に対応している関係者と課題を共有し、安心できる居場所や人との交流の場を協議する。またそれによって、子ども達本人が自己表現したり、生き方を探したりするきっかけ作りができるようになる。
- ・目標②については、りんごマップ制作でつながった団体や当事者達と協議を重ねていくことを通して、お互いのネットワーク作りの強化を図る。また、お互いに他分野の課題と照らし合わせることで、課題の解決方法や新たな視点に気が付く機会とし、参加者が我がごととして捉えることで主体的に分科会に参加できることを目指す。